

第 42 回大会の代替措置について

2020 年 6 月 12 日

(1) 自由論題

今大会で予定されていた自由論題報告は、次の 1 件である。

「アメリカ啓蒙と陰謀論」

上村剛（日本学術振興会特別研究員 PD／法政大学）

発表機会を確保するため、大会と同じ条件になるよう 40 分以内に収めた動画を日本 18 世紀学会公式 YouTube チャンネルでオンデマンド方式で配信する。

配信期間：2020 年 6 月 27 日(土)14 時から同年 7 月 5 日(日)24 時まで

公開範囲：本学会会員に限定。URL を知っている人だけが視聴できるように限定し、URL はメーリングリスト（以下、ML と略記）で会員に知らせる。動画の登録は配信開始の数日前になるため、現段階ではここに URL を記載することができない。

資料（ハンドアウト）：学会アカウントの Google ドライブに掲載し、パスワードを ML で知らせる。

この URL も ML で周知する。

質疑応答は、動画の公開が終了するまで学会アカウントの Google フォームで受け付ける。この URL も ML で周知する。発表者からの返答は、YouTube チャンネルまたは ML で伝える。ただし、質問の数によってはすべてに対応できない可能性がある。

(2) 共通論題

開催校責任者でもある奥香織会員のコーディネートにより、「公共空間と演劇」をテーマにした共通論題が開催される予定だった。自由論題と同様の方法による配信の可能性も探したが、テーマの性質上、映像や図版をふんだんに使用するため、公衆送信には問題があるとの判断に至った。

代替措置として、登壇してくださる予定だった方々に報告内容を文章にまとめていただき、それらの原稿を来年発行の『日本 18 世紀学会年報』第 36 号に掲載する予定である。

(3) レクチャーコンサート

開催校責任者でもある辻昌宏会員のコーディネートにより、ヘンデルのオペラをテーマにしたレクチャーコンサートが開催される予定だった。大会におけるレクチャーコンサートは、本学会のサロンの性格を象徴するものである。実地での大会開催が叶わないとしても、何らかの形でコンサートを実現したいと考え、日本 18 世紀学会公式 YouTube チャンネルで配信することにした。

配信期間：2020 年 6 月 27 日(土)15 時から無期限

公開範囲：会員に限定せず、一般公開。

URL：<https://www.youtube.com/channel/UCT9JT8dS2g2-dAe7gFri2Uw/>

資料（ハンドアウト）：学会アカウントの Google ドライブに掲載し、パスワードを ML で知らせる。

この URL は ML で周知する。

(4) 総会

大会に合わせて実施している総会は、書面形式で開催する。総会の議題は、学会ニュースやこの文書等とともに全会員に向けて郵送されている。報告事項と協議事項に対する意見表明、および協議事項に対する不承認の意思表示は、2020年6月28日(日)まで学会アカウントのGoogleフォームで受け付ける。この期限までに意思表示をしなかった会員については、原案を了承したものとして扱う。詳細については「日本18世紀学会 2020年度総会 議題」を参照されたい。

以上

日本18世紀学会

自由論題報告要旨

アメリカ啓蒙と陰謀論

上村剛（日本学術振興会特別研究員PD／法政大学）

18世紀啓蒙が「ヨーロッパ」の現象であるかをめぐっては、アメリカの文脈においては、啓蒙が存在したかという辺境からの視角において、これまで論じられてきた。本報告は、啓蒙論の中でアメリカがしめる位置について論じる。報告の前半では、ヨーロッパの啓蒙とアメリカの啓蒙との関係について、アメリカ啓蒙の先行研究を伝播モデル、固有モデル、共振モデルの三つに整理する。すなわち、ヨーロッパの啓蒙がアメリカへと伝播したという理解、アメリカにはヨーロッパとは異なる固有の啓蒙があるという理解、ヨーロッパとアメリカとは同時並行的に、トランスアトランティックな啓蒙を展開したという理解である。まずは、アメリカ啓蒙についての先行研究をレビューしながら、このようなかたちでアメリカ啓蒙について議論する。

その上で、報告の後半では、アメリカ啓蒙について新たな分析を加える視角として、革命と陰謀論について論じる。アメリカ革命を陰謀論の帰結として理解する態度は、革命史研究の第一人者、バーナード・ベイリンとゴードン・ウッドが1960年代に著した論文以降、通説の地位を長らく占めてきた。アメリカが本国から独立したのは、合理的な理由が存在したというわけではなかった。本国が一部の邪悪な政治家たちによって専制に近づいており、それによって植民地もその専制に苦しめられる、という陰謀論的な言説（イデオロギーとも呼ばれる）の結果である、とウッドは解釈したのだった。このような陰謀論の結果としてのアメリカ革命という議論を前提として、この議論がアメリカ啓蒙論と整合的か、いかなる関係に立つか、を再考する。ウッドの議論によれば、このような陰謀論は合理的な思考を無理やり追求しようとした結果生じるものであるから、合理的な時代に逆説的に登場するものであるとされる。この見地からすれば、啓蒙のなかに合理性という要素が含まれるのであれば、啓蒙と陰謀もまた親和的たらざるをえないという帰結が生じることになる。

本報告は、以上の議論を踏まえ、アメリカ啓蒙の特徴を理解するには啓蒙と陰謀論の関係を考える必要があること、さらに、それを考えるにあたっては、18世紀後半の合理性とは何を意味するか、合理的な思考の形態について立ち入った議論が必要となることを示すものである。

ヘンデルにおけるオペラの舞台空間と演技 オペラ « Serse » の実践

【出演者】(詳しいプロフィールは次のページにあります。)

ソプラノ：民秋 理

メッツォ ソプラノ：横町 あゆみ

ヴァイオリン：大西 律子

チェンバロ：伊藤 明子

レクチャー：原 雅巳

【曲目】

G. F. Handel (1685 - 1759) Opera « SERSE » より

ATTO I SCENA III

O voi che penate Per cruda beltà (Romilda) おお 皆さま、つれない美女にお悩みのかた～

Io le dirò che l'amo (Serse) 彼女に愛していると伝えよう

SCENA VI

Di tacere e di schernirmi (Serse) 口をきくな、余をからかえ と

Nè men coll'ombre d'infedeltà (Romilda) 不実の翳 (かげ) がさして

SCENA XIV

Un cenno leggiadretto (Atalanta) なよやかな仕種

ATTO II SCENA III

E tormento troppo fiero (Serse) あまりにも苦しい責め苦

Dirà che amor per me (Atalanta) あの人は言うでしょう

ATTO III SCENA III

Per rendermi beato (Serse) 幸せになるために

SCENA VII

Troppo oltraggi il mio fede (Romilda Arsamene) 私の真心をあまりにも侮辱なさる

原 雅已 はら まさみ (レクチャー)

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。同大学院独唱科修了。渡仏。オルレアン・コンセルヴァトワール、ジュネーヴ・コンセルヴァトワール(古楽センター)を修了。声楽、室内楽、バロック・ジェスチャー、朗唱法を学ぶ。帰国後、フランス・ルネッサンス、バロック音楽を中心に演奏活動を行い、CD「ふらんすの恋歌」、ラ・フェート・ギャラントと「パリの悦楽」をリリースする。第69回日本音楽学会・東洋音楽学会の合同例会にてパネリスト、放送大学で「西洋音楽の諸問題」に客員講師として出演する。また、日本ヘンデル協会においてバロック・ジェスチャーの講師を務め、協会主催のオペラ公演《リナルド》《セルセ》《アグリッピーナ》《忠実な羊飼ひ》《パルテノペ》《フラーヴィオ》《デイダミア》《アリオダンテ》等で音楽監督・演出を務める。

民秋 理 たみあき みち (ソプラノ)

国立音楽大学音楽教育学科卒業。東京藝術大学大学院古楽科(バロック声楽専攻)修了。ヘンデル《アグリッピーナ》《パルテノペ》《デイダミア》、モンテヴェルディ《ポッペアの戴冠》、等バロックのオペラに出演、またバッハのカンタータ、ペルゴレージ《スターバト・マーテル》、ヘンデル《メサイア》、フォーレ《レクイエム》など宗教作品のソリストを務める。アンサンブルグループ〈コロスタシア・アネックス〉〈VocesTokyo〉のメンバーとして、ルネサンス期から現代曲、さらにはアニメ、ゲーム音楽の録音・演奏に携わっている。社会福祉法人ピスティスの会音楽講師。日本ヘンデル協会、二期会会員。

横町あゆみ よこまち あゆみ (メゾ ソプラノ)

京都市立芸術大学卒業、金沢大学大学院修了。国立音楽大学音楽研究所にてバロック時代の演奏様式を学ぶ。ルネサンス、バロックから現代に至るまで幅広い作品のソリストを務める。表情のある伸びやかな声には定評があり、特に教会作品のレパートリーは数多い。2012年西東京ニューカマーアーティスト最優秀賞受賞。2016年より「フレンチカンタータの時代の音楽」と題したコンサートを展開するなど意欲的に活動している。新国立劇場合唱団、アンサンブル・ミリム、ヘンデル・フェスティバル・ジャパン、ヴォーカルコンサート東京などの声楽アンサンブルに所属するほか、合唱団の指導者、ヴォイストレーナーとしての確かな指導にも定評がある。

大西律子 おおにし りつこ (ヴァイオリン)

国立音楽大学卒業。第14回古楽コンクール(山梨)第3位。「カンタータ・ムジカ・Tokyo」「Millennium Bach Ensemble」「モーツァルト・アカデミー・トウキョウ(MAT)」のコンサートマスター、「国分寺チェンバーオーケストラ(KCO)」の弦楽器トレーナー、「オーケストラ・オン・ピリオド・トウキョウ(OPT)」の指導者兼コンサートマスター、国立音楽大学非常勤講師。

伊藤明子 いたう あきこ (チェンバロ)

武蔵野音楽大学器楽科ピアノ専攻卒業。ピアノを荘良江、山崎冬樹、井上二葉の各氏に師事。現在、フランス歌曲等声楽曲の伴奏、古典から現代まで4団体の合唱ピアニストを務める。日本フォーレ協会会員。またチェンバロを、岡田龍之介、渡邊順生、故D.ヘルマン、副嶋恭子、桑形亜樹子の各氏に師事。バッハ他の宗教曲、オペラの通奏低音担当での出演多数。ヘンデルのバロック・ジェスチャー付オペラ公演《リナルド》《セルセ》《アグリッピーナ》《忠実な羊飼ひ》《パルテノペ》《フラーヴィオ》《デイダミア》《アレッシンドロ》《アリオダンテ》等に携わる。日本ヘンデル協会会員。